

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502439		
法人名	(有) ドリーム・キャスル		
事業所名	グループホーム キャスル清田		
所在地	札幌市清田区清田3条2丁目7番4号 (電話) 011-884-6111		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年 6月26日	評価確定日	平成20年7月23日

【情報提供票より】 (20年 5月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	11 人	常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	7階建ての	1~4	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他の経費(月額)	25,000 円
			11~3月 7,000 円
敷 金	有 (119,000円)・		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (6月 26日現在)

利用者人数	13名	男性 6名	女性 7名
要介護1	0名	要介護2	8名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86.3歳	最低 70歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木内科医院、南青州病院、ラビット歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

キャスル清田は、有料老人ホームの一部をグループホームに改造して作られており、1階にはデイサービスも有するなど7階の建物全体が老人福祉の複合ビルとなっています。利用者の居室はワンルームマンションの形態をそのまま利用されており、独立性が強くプライバシーが良く守られているホームとなっています。全てがバリアフリーではありませんが、一部の凹凸などは利用者の機能訓練に効果を上げています。都会の喧騒の中にあっても、ビルの中に作られている日当たりの良い広いテラスは、利用者にとっての憩いの場として貴重なものとなっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題となった自己評価を含めた取り組み状況は、運営推進会議の理解度、地域との付き合い不足など、何れも前向きな取り組みの姿勢はあるものの、成果はあまり見られず、管理者始めスタッフ一丸となった取り組みが期待されます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者と主任により作成されたものをスタッフ全体に提示していますが、評価に際しては全てのスタッフが日常の気づきから考察と評価が望まれ、ボトムアップからなる集約された評価への取り組みが望まれます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議の回数、また、不定期な開催と会議の内容にマンネリ化の傾向が見られます。定期的な開催と会議の構成メンバーを拡大するなど柔軟な人選により、活発な会議への転換を期待します。また、評価も公表して、取り組みへの進捗状況について「改善計画シート」を利用した説明、防災対策に関わる地域住民の協力などホーム運営の根幹への積極的な取り組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪問時にスタッフと会話する内容から、家族の意見、要望、苦情を的確に把握する「家族連絡簿」の記載は、良くできており、サービスの向上などホーム運営に役立っています。家族会でも独自のアンケートを作成しての家族の意見集約への取り組みが計画されており、その成果に大いに期待します。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>有料老人ホームと複合するグループホームの立地が、地域にとって認識が浅い現状ですが、利用者の散歩を通して少しずつ地域への浸透が進みつつあります。ホームとして町内会事業への積極的な参加を行なうなど、利用者が地域での暮らしを実感できる取り組みを期待します。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中で、その人らしく生活するための環境づくりが理念に謳われており、日々研鑽が続けられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パンフレットのほか、手書きの理念が随所に掲げられて、訪れる家族、またスタッフにとっても理念の共有と取り組みが可能となっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は、ワンルームの有料老人ホームであったところから地域との触れ合いが多いとはいえません。建物の一部がグループホームに変わった現在、スタッフの努力により散歩などで近隣の住民との触れ合いが増加しつつありますが、町内会との連携も不足気味です。	○	利用者が地域の一員として、町内会の事業などに参加して、交流が図れるよう積極的な取り組みを望みます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義について理解して、カンファレンスで提示はしていますが、自己評価の作成にあたっては一部のスタッフで作成されており、全スタッフを対象とした気づきの集約とはなっていません。	○	評価の意義と理解を、全てのスタッフが等しく理解して活用に向けた取り組みが必要で、自己評価の作成に当たってもボトムアップによる意見や気づきの集約が望まれます。また、取り組みについては「改善計画シート」の活用をお勧めします。

札幌市清田区 グループホームキャスル清田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	予定されている会議の開催は少ない状況にあります。また、構成するメンバーも少なく固定化されており、内容もマンネリ化の傾向にあります。	○	ホームの状況報告に留まらず、地域に密着したホームの運営や地域との触れあい、評価の公表と取り組み状況、また、防災対策など幅広い理解と対応を図るため、柔軟なメンバーの構成も必要でその取り組みに期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当窓口とは、頻繁とは行かないまでも運営上の相談など、度々相談をしながらホームの運営の質の向上に役立てています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヵ月に1度、発行される「キャスル通信」、また、家族の訪問時を利用して、ホームの行事報告や利用者の暮らしの様子などを報告しています。家族が遠方の場合には電話による報告をして家族の安心につなげています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」が設置されていますが、家族などの意見、要望、苦情は専ら訪問時の口頭で寄せられています。スタッフは口頭での内容を「家族連絡簿」に記録することにしており敏速な対応を心掛けています。また、家族会では独自のアンケートを企画して、より多くの意見、要望に関して集約することを計画中です。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの退職による異動は極僅かですが、ユニット間の異動では利用者が自由な行き来が日常行なわれており、あまり影響がなく、家族への報告を綿密に行って不安の払拭に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのスキルアップは、サービスの質の向上には欠かせなく、研修による育てる取り組みは重要です。区内で開催される研修会にはスタッフを派遣し受講の機会を与えていますが、各スタッフの力量に応じた計画的な研修の受講には至っていません。	○	内部研修のほか、外部研修の受講機会も、各スタッフの力量に応じた年間の計画的な取り組みが期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のグループホーム管理者連絡会で月1回の会合を持ちながら、同業者間の情報交換及び交流を図っています。今後、管理者に加えスタッフも交流する機会を作りサービスの向上に役立てようとしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してホームの生活が送れるよう、管理者などが自宅訪問や入院先などを訪問して、顔馴染みになることから始めることにしています。利用者が暮らしに馴染めるようゆっくりと時間を掛ける配慮をしており、家族の方々の協力も得ながら進められています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が自力により、家庭的な暮らしの中で行動できる支えとなるよう心掛けており、スタッフは利用者と同じ目線で物事を判断しながら一緒に行動し、喜怒哀楽をともにすることで、ストレスの解消にも役立てています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の係わりの中で、一人ひとりの思いや意向を推し測るように努めています。生活歴も意向把握に役立つことが多く、スタッフ個々のスキルアップを図りつつ研鑽を重ねています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回のカンファレンスにおいて、本人がより良い暮らしができていないか、また、ケアのあり方に関して担当者を中心に意見交換が行なわれており、それらを家族並びに介護支援専門員を交えて話し合い、介護計画の作成に反映させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当スタッフは、利用者の日々の暮らしや体調を細やかに観察し、「見直しシート」に記入し、見直しの必要性を家族やかかりつけ医など関係者と相談しながら、新たな計画作成をしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族に代わって、病院への送迎、特別な買物、墓参りなど、ホームの持つ多機能性を活かした柔軟な支援が日々続けられています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を利用する3人の利用者以外は、ホームの協力医療機関を利用しています。2週に1回の訪問診療も利用するなど、主治医とは24時間の受診協力体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応の必要性は理解し、内部研修でも取り上げているものの、現状では家族を交えた取り組みが行なわれていません。家族会でも今後、検討課題として取り組む予定があります。	○	家族会でも今後取り上げる予定がありますが、平素から家族やかかりつけ医と連携の下、重度化や終末期への方針の共有に向けた話し合いが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室は、以前のワンルームマンション仕様であり、洗面所、トイレなど設備が居室に完備されているなどプライバシーは確保されています。個人情報の第三者提供に関する同意書も得ていますが、写真の掲載などにも十分な配慮がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮された、日々ゆったりとした暮らしが営まれています。陽射しが暖かいときには、散歩に出掛けるほかテラスの植栽を愛でるなど、利用者一人ひとりの暮らしの支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立はスタッフが考えて提供されていますが、利用者の希望も反映するようにしています。月に1度は栄養士の指導を得て、栄養のバランスへの配慮をしています。食事の準備や後片付けは利用者も楽しみながらスタッフと一緒に進みます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望する時間の入浴への実現は、取り組みの課題として検討されてきましたが、スタッフのシフトなどの課題解決に至らず、実現されていません。	○	当初、1階の大きな浴室を使用してきましたが、現在では上のユニットにも完備され見守りが以前より容易となっています。夜間を含めた柔軟な入浴が実現できるようシフトの改善など更なる取り組みを期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くの小公園への散歩を兼ねたゴミ拾いやテラスの植栽、盆栽など、利用者にとって暮らしの中でささやかな楽しみごとを、スタッフは大切に支援しています。男性利用者は床掃除の手伝い、女性利用者は裁縫や編み物など多彩な趣味で楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	陽射しが暖かな日には、利用者の体調に配慮しながら、毎日のように散歩して健康維持に努めています。また、希望によりドライブに出掛け爽やかな気分転換に役立っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の国道は交通量が多く、普段から散歩などには気配りを必要としています。昼間の入口は開放され夜間のみ表玄関の施錠をしています。ユニット間では自由に行き来が可能で、スタッフは見守りに努めています。		

札幌市清田区 グループホームキャスル清田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練が実施されていますが、夜間を想定した避難訓練がされておらず、また、地域住民への協力要請など体制づくりに至っていません。	○	マニュアルはできているものの、災害などへの対応に際しては、日頃の訓練及び近隣の住民協力が不可欠です。町内会への要請や運営推進会議での検討課題として取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量と水分摂取のチェックは日常的に行なわれています。また、栄養バランスも定期的に栄養士の指導を得て日常の献立に反映するように努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンルームの居室に快適性を求めているせいか、共用のスペースである食堂やリビングは若干手狭な感じがしますが、利用者同士で仲良く会話が弾んでいます。リビングからは広いテラスが一望でき、数種の苗ものや花々、盆栽など菜園が植えられて利用者の憩いの場となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は以前のワンルームマンションを一部改造し、住居としてトイレや洗面所、収納棚などが具備されており、利用者のプライベートゾーンとして機能しています。家具なども使い慣れたものが整然と置かれて安心の暮らしが続けられています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。